

『既知であり未知の土地』 鈴木凜

私はここ、東京から鎌倉へ行けません。行ったことありません。それでも私は、鎌倉が大好きです。

小学六年生の秋、従妹から一枚のポストカードが送られてきました。そこに写っていたのは美しいあじさいと寺院。横に「鎌倉に行ってきたよ。」と、メッセージが添えられていました。その当時、鎌倉時代を学習していた私は鎌倉に対して「源頼朝がいた場所」としか思っていなかったのです、この写真、明月院の美しさに、思わず言葉を失いました。

インターネットを使って調べみると、更なる魅力に引き込まれました。金沢街道の奥ゆかしさ、江ノ島、龍恋の鐘のロマンチックな雰囲気、高德院にたたずむ鎌倉大仏の貫禄。東京のビル群に囲まれて暮らす私にとっては、何もかもが新鮮で、画面越しに鎌倉の景色を食い入るように見つけていました。お取り寄せで食べた鎌倉半月のホッとする味わいも、

私を鎌倉に行かせたくなるものの一つです。

鎌倉へ行けない原因は、私の身体にありません。「慢性疲労症候群」、現在患っている病気です。この病気は、生活に支障をきたす疲労に伴い、頭痛や吐き気をもよおします。その所為で、未だに鎌倉へ行けずにいます。

しかし、病気を患って良かったこともあり  
ます。それは鎌倉の魅力をたくさん知れたこと  
です。病気でなければインターネットを使  
って調べることはありませんでした。鎌倉に  
対して情熱を注ぐことはありませんでした。  
それはちよっぴり嬉しいです。

私は鎌倉へ行けません。行ったこともあり  
ません。だから行きたいです。鎌倉の美しい  
景色を見て、美味しいものを食べて、そこで  
しかできない体験をしたいです。そのため  
絶対に病気を治します。私にとって既知であ  
り未知の土地「鎌倉」。絶対に行くから、楽  
しみに待っていてください。